



平成28年9月30日

関係各位

長崎県医療政策課感染症・がん対策班
担当：竹野・藤原 内線：2466
電話：直通 095-895-2466

日本脳炎の予防のための注意喚起情報

～特に幼児や高齢者は注意が必要です～

蚊(主にコガタアカイエカ)が媒介する感染症である日本脳炎患者が、対馬保健所管内で4例発生しました。

今年、初めての発生であり、県内では平成25年9月以来の発生となります。

蚊の活動時期は、秋ごろまで続きますので、感染予防の周知にご協力をお願いします。

発生概要

発生例	1	2	3	4
発生地	対馬保健所管内 対馬市	対馬保健所管内 対馬市	対馬保健所管内 対馬市	対馬保健所管内 対馬市
年代	80歳代	70歳代	80歳代	70歳代
性別	男性	男性	女性	男性
発病日	8月31日	8月20日	8月31日	9月15日
症状等	髄膜炎	髄膜炎 意識障害 脳炎 脳症	髄膜炎 意識障害 脳症	髄膜炎 意識障害 脳炎
発生届出日	9月28日	9月28日	9月28日	9月28日
確認検査日	9月29日	9月29日	9月29日	9月29日
診断方法	特異抗体の検出	特異抗体の検出	特異抗体の検出	特異抗体の検出
現在の状況	入院治療中	入院治療中	入院治療中	入院治療中

※ 同一時期の発生ですが、患者の行動には共通性がないため、集団感染や院内感染ではありません。

予 防 法

■ 日本脳炎ワクチンの接種（最も効果的）

標準的な定期予防接種は、1期接種(3歳で2回)、1期追加接種(4歳)、2期接種(9歳)の方が対象です。ワクチン接種により、日本脳炎の罹患リスクを75～95%減らすことができますと報告されています。定期予防接種は、市町からの案内に沿って接種を受けて下さい。

任意接種することも可能ですので、かかりつけ医にご相談ください。

■ 蚊に刺されない工夫

日本脳炎は蚊(主にコガタアカイエカ)によって媒介されるので、蚊に刺されない対策や、蚊を増やさない環境づくりが重要です

- ・蚊の活動時間帯(夕方～夜明け)には屋外で過ごすことを避ける。
- ・戸外で過ごすときはできるだけ皮膚の露出を避ける(長袖、長ズボン等の着用)。
- ・虫除けスプレー等を活用する。
- ・屋外の水溜りを減らし、ボウフラの発生源をつくらない。
- ・網戸を閉め、蚊が家の中に入らないようにする。

■ 十分な休息

休養、栄養、睡眠を十分にとり、過労を避けて、免疫力を維持して発症を予防する。

1. 日本脳炎とは

日本脳炎ウイルスによって起こるウイルス感染症であり、人にはウイルスを持っている蚊（主にコガタアカイエカ）に刺されることにより感染します。患者発生は西日本に多く、蚊の発生時期である夏から秋にかけて報告されています。人から人への感染はなく、また感染者を刺した蚊に刺されても感染することはありません。

潜伏期間：6～16日

症 状：数日間の高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、急激に、光への過敏症、意識障害（意識がなくなること）、けいれん等の中樞神経障害（脳の障害）を生じる

発病率：感染者およそ100～1,000人に1人

致死率：脳炎を発症した場合20～40%（幼児や高齢者では危険が高くなります）

2. 長崎県、全国の患者発生状況（人）

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28*
長崎県	0	0	0	1	2	0	1	0	0	<u>4</u>
全 国	10	3	3	4	9	2	9	2	2	<u>4</u>

※平成28年第38週（平成28年9月19～25日）現在 今回の発生例を含む

3. 日本脳炎の定期予防接種の標準的なスケジュール

平成7～18年度に生まれた方は、平成17～21年度に日本脳炎の予防接種を受ける機会を逃していることがありますので、母子健康手帳などをご確認いただくとともに、今後、市町からのご案内に沿って、接種を受けていただくようお願いします。

1期接種（計3回）	2期接種（1回）
3歳のときに2回（6～28日の間隔をおく） その後おおむね1年の間隔をおいて（4歳のときに）1回	9歳のときに1回

4. 日本脳炎感染源調査について

県では日本脳炎の流行予測を目的として、毎年7月～9月の間に日本脳炎ウイルスの増幅動物であるブタのウイルス感染状況を調査しています（諫早市のブタ10頭×8回）。

7月26日に調査したブタ10頭のうち、3頭から日本脳炎ウイルス抗体（IgM抗体）が検出されました。このため、8月2日付けで、注意喚起情報をお知らせしています。

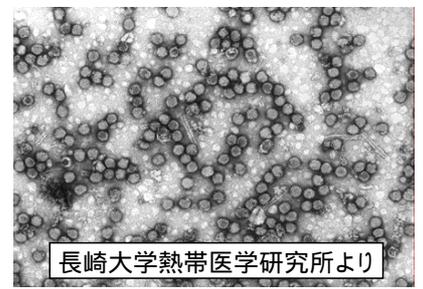
9月13日に調査した結果においても、ブタから抗体が検出されていますので、「蚊」が活動する秋ごろまでは引き続き注意が必要です。

5. 今後の対応

県では、10月3日から、対馬市での感染源を究明するため蚊を補集してウイルス分離及び遺伝子解析を行います。また、流行阻止対策の検討などの疫学調査のために、国立感染症研究所による現地調査を実施します。

日本脳炎ウイルス Japanese encephalitis

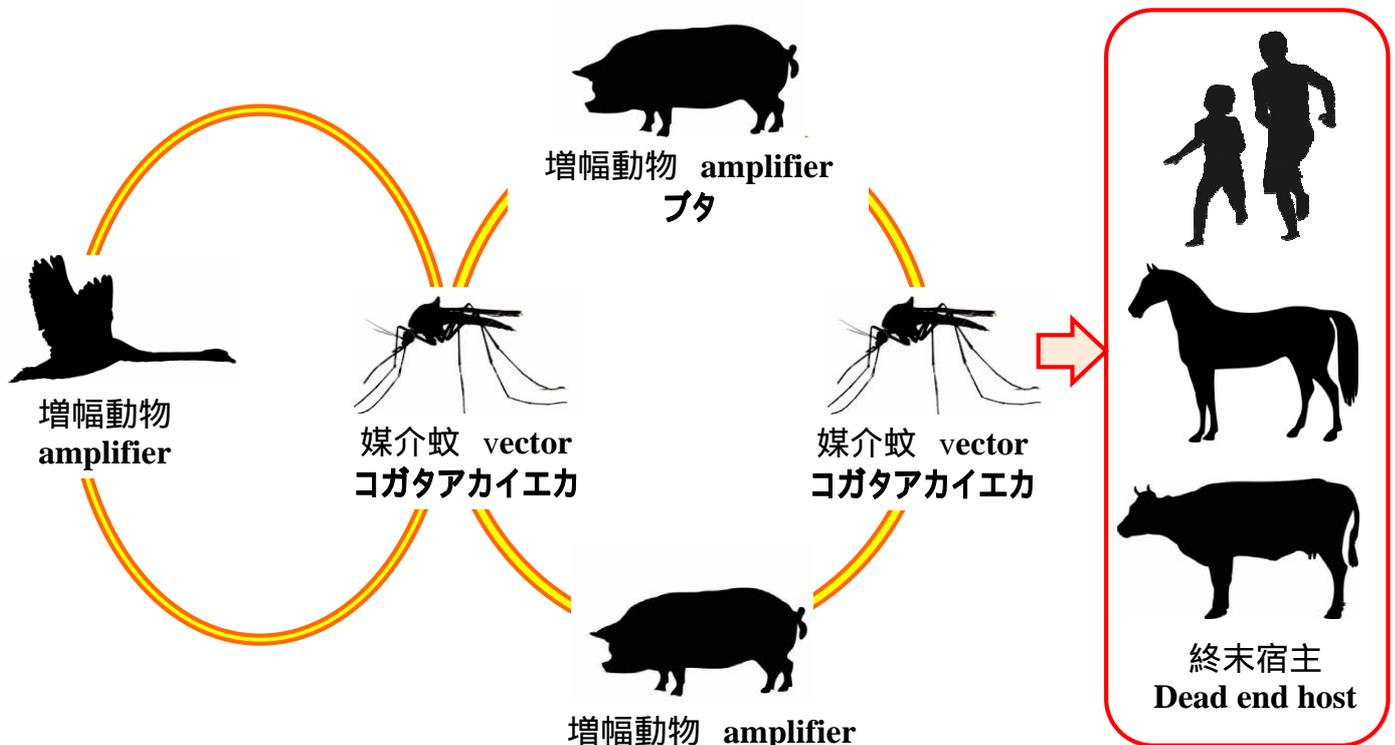
フラビウイルス科フラビウイルス属



長崎大学熱帯医学研究所より

- 潜伏期 6-16日
- 症状 感染者の**100～1,000人に1人**が発症、多くは不顕性感染
数日間の高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、急激に、光への過敏症、意識障害(意識がなくなること)、けいれん等の中枢神経障害(脳の障害)を生じる
- 死亡率 発症者の**20～40%** (高齢者や幼少児では高リスク)
- 治療 治療として有用な抗ウイルス剤等なし(対症療法)
- 予防 **ワクチン接種** (日本・韓国等はワクチンにより流行阻止)
 - ・蚊の活動時間帯(夕方～夜明け)には屋外で過ごすことを避ける。
 - ・戸外で過ごすときはできるだけ皮膚の露出を避ける(長袖、長ズボン等の着用)。
 - ・虫除けスプレー等を活用する。
 - ・屋外の水溜りを減らし、ボウフラの発生源をつくらない。
 - ・網戸を閉め、蚊が家の中に入らないようにする。

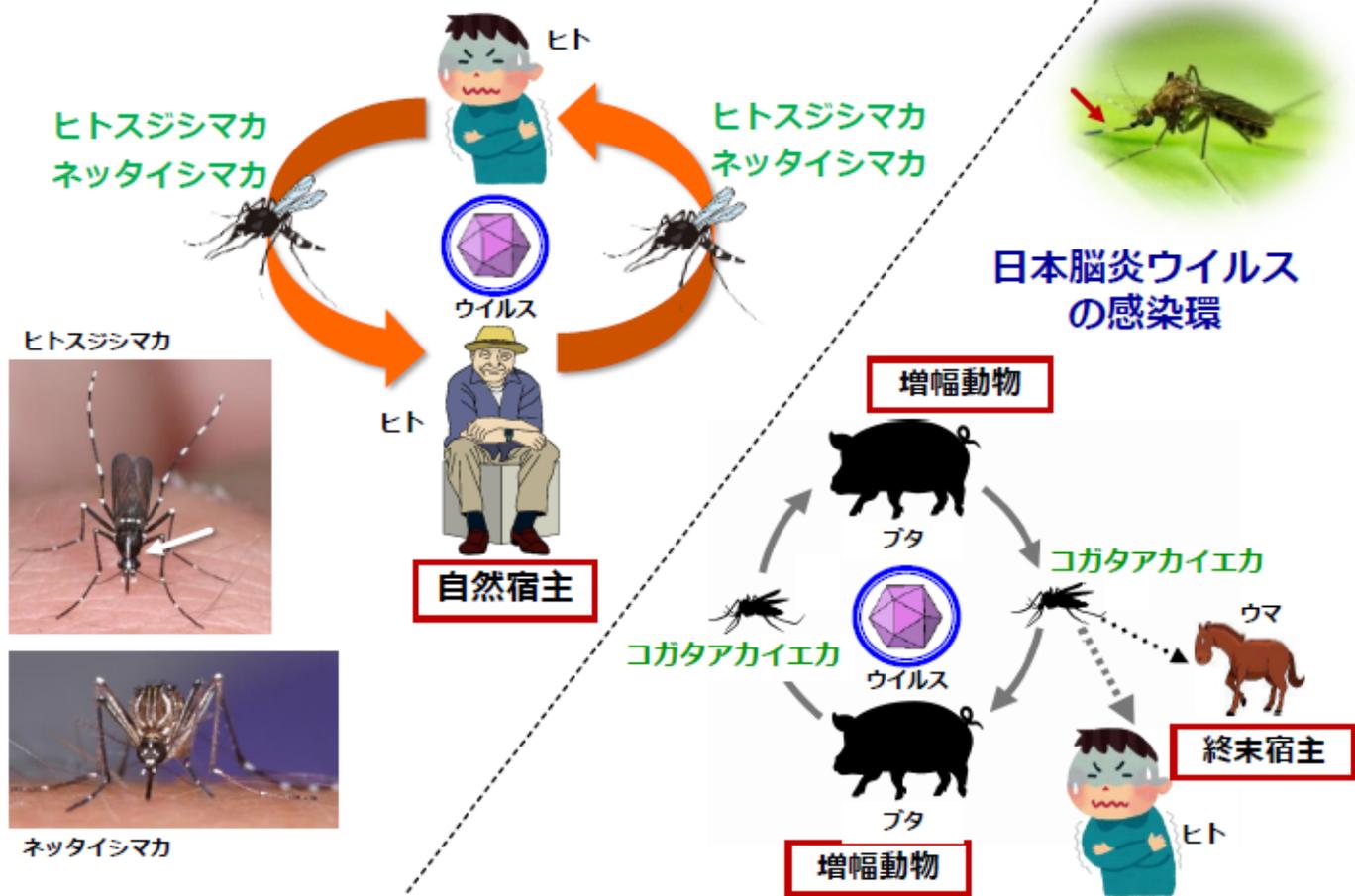
日本脳炎ウイルスの感染環



ヒト - ヒト感染はない

ウイルスを持ったコガタアカイエカは吸血後、産卵のためすぐさま次に吸血しない
感染環には増幅動物が必要

デング・チクングニア ・ジカウイルスの感染環



平成28年3月11日 厚生労働省「ジカウイルス感染症」に関する全国担当者会議資料 国立感染症研究所から抜粋編集

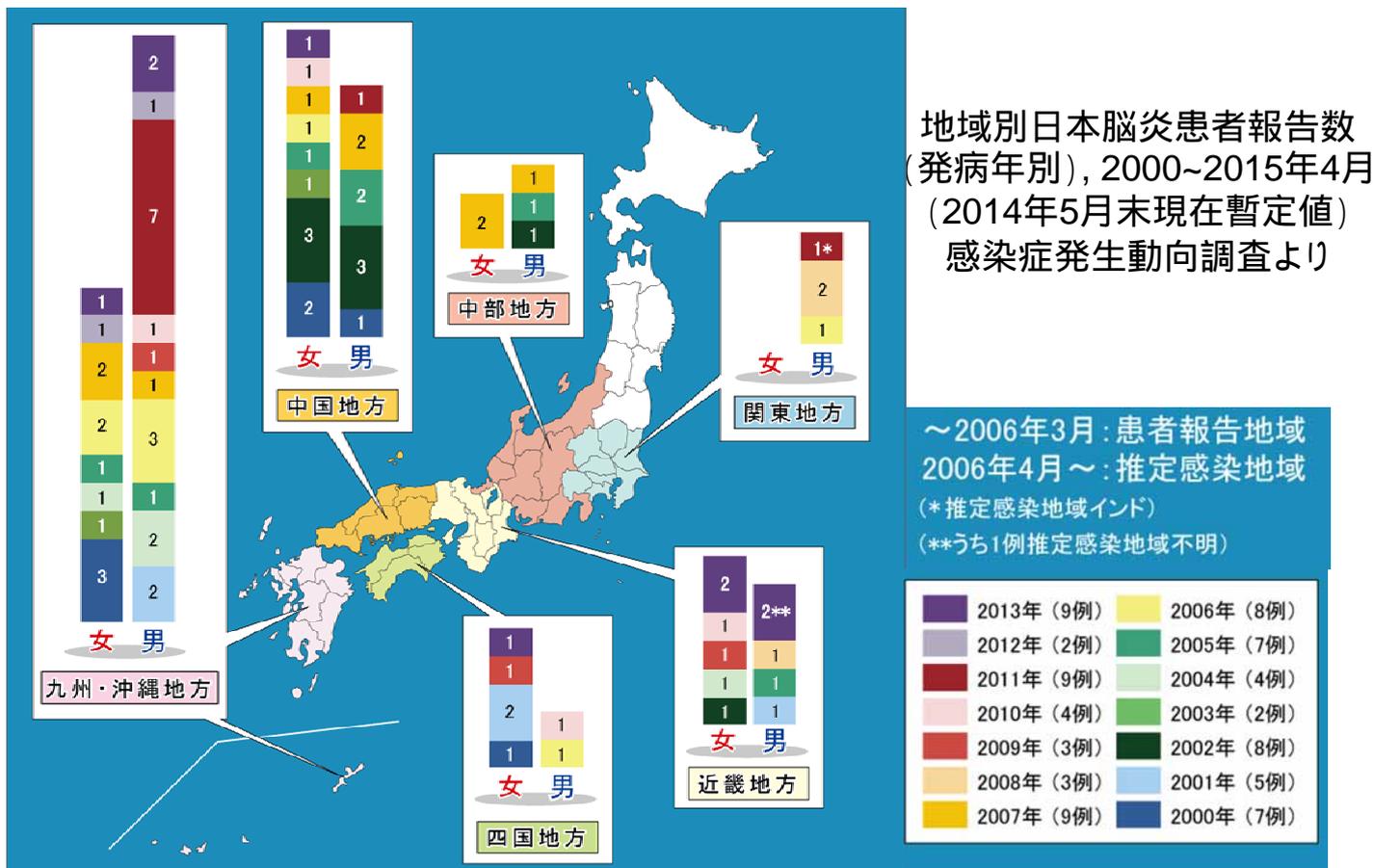
ウイルス媒介蚊の生理・生態特徴



諸性質	ヒトスジシマカ	アカイエカ	コガタアカイエカ
ウイルスの媒介	デングウイルス チクングニアウイルス	ウエストナイルウイルス	日本脳炎ウイルス
幼虫の生息場所	雨水マス 空き缶・小容器	雨水マス 下水槽	水田 湖沼
吸血嗜好性	ヒト その他動物種 昼間吸血	ヒトとトリ 夜間吸血	ウシ・ブタ・ヒト (トリ) 日没後吸血
越冬/栄養生殖分離	乾燥卵	成虫越冬	成虫越冬
飛翔	100~200 m	2~4 km	>10 km (200 km/1晩) ?

平成28年3月11日 厚生労働省「ジカウイルス感染症」に関する全国担当者会議資料 国立感染症研究所から抜粋編集

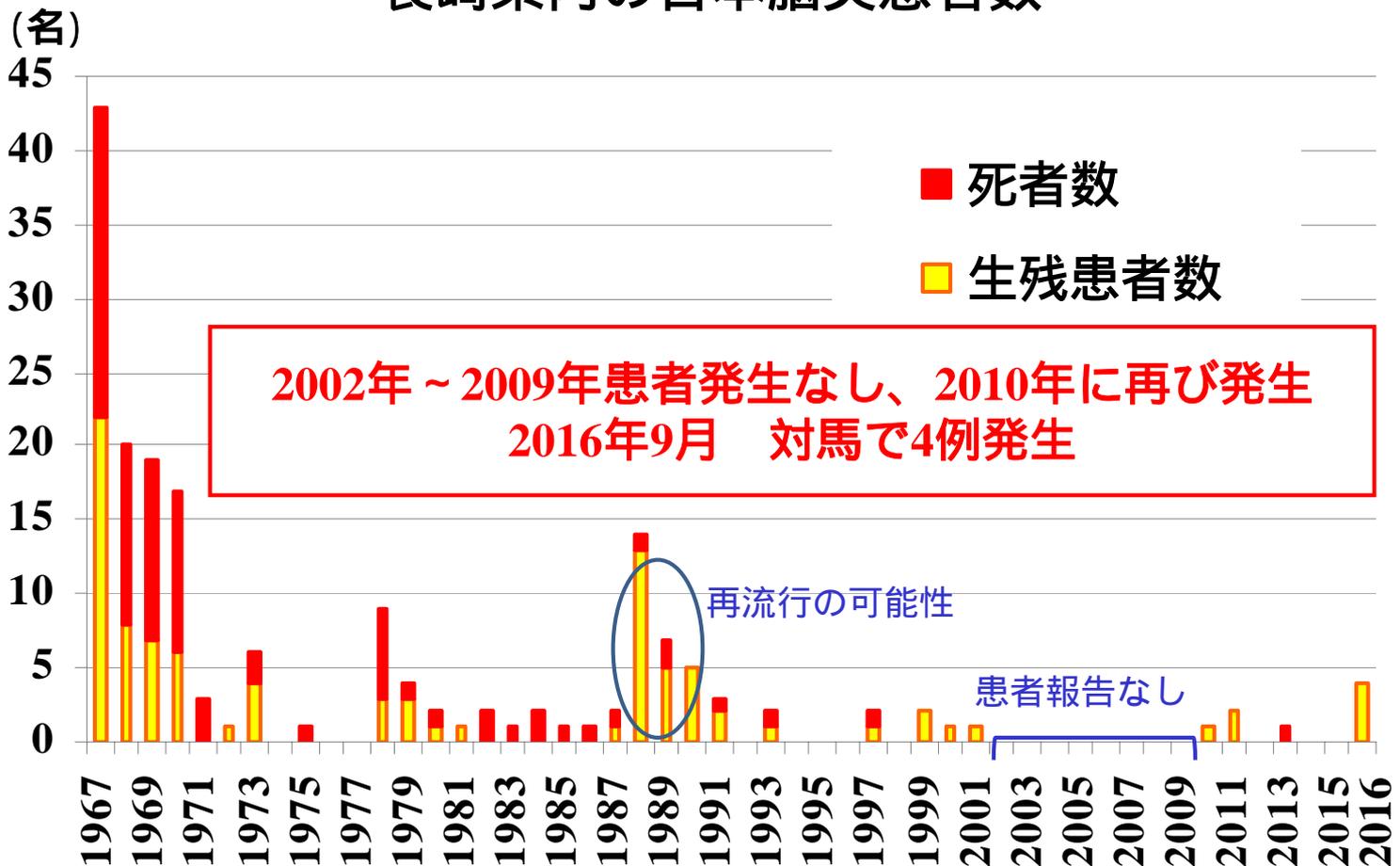
日本脳炎患者の発生地域



九州や中国地方といった**西日本を中心に**患者発生

国立感染症研究所HPより抜粋

長崎県内の日本脳炎患者数



患者数及び死者数は長崎県環境保健研究センターの所報より抜粋